

寸言

AeroEdge株式会社
代表取締役社長
森西 淳



本邦中小製造業のあり方に新風を

このたび、弊社は日本航空宇宙工業会に入会させていただくことになりました。新入会に際しましては、関係者の皆様方には、大変お世話になりありがとうございます。

弊社は、昨年(2016年)1月1日に事業を開始いたしました。現行の主力事業はフランスのSAFRAN AIRCRAFT ENGINES社(旧SNECMA社)との直接契約に基づく、単通路型中型航空機に搭載される次世代エンジン「LEAP」向のチタンアルミ製タービンブレードの量産です。本格的な量産を始めたのは、栃木県足利市に本社工場が完成し数ヶ月を経た2016年8月からでございますから本格的なものづくりの会社として動き出してからちょうど1年足らずの新しい会社でございます。この新しさを逆にアドバンテージと捕まえ、ゼロからイチを生み出す創造性を最も重要な行動指針と位置づけ、グローバル航空宇宙産業において意義のある仕事を展開し、本邦中小製造業のあり方に新風を吹き込むことを目標にこの1年まい進して参りました。

結果として、2017年6月現在なんとか同タービンブレードの量産も軌道にのりつつあり、またこうした経験を通して更にグローバル市場に打って出るための最低限の「構え」が整ってきたのではないかと思います。具体的には、第一に開発～量産～品質保証まで一貫して請負える体制が整ったことです。グローバルOEMと直接取引をしていく必要条件として常に顧客から要求されていることはサプライチェーンの管理から品質保証まで全て自前で行う能力の具備です。品質保証に係わる国際

認証検査員の自律的社内育成体制の基盤を構築できたところでございます。二つ目は、チタンアルミニウムをはじめとする難削材料の加工工程ノウハウです。チタンアルミのみならず複合材料など今後航空分野で広く使われる新素材はいずれも加工が難しいものばかりです。これら難削材料を加工するための工程確立から量産まで見据えたラーニングカーブの描画まで、中長期的な視点で顧客の生産要求に確実に対応するための知見を主力事業の運営を通し蓄積いたしました。三つ目は、グローバル航空産業ネットワークです。この1年間、ほぼ毎月の海外展示会への出展及び直接商談機会の設置を通し欧米に多く所在する航空宇宙OEM各社との直接会話ができる関係構築を急いでまいりました。

当然ながらこの1年間で築いたものが十分だとは認識してはございません。しなしながら、弊社は、今後、グローバルで航空宇宙・防衛産業を取り巻く環境が大きく変わろうとしている時代において、日本の航空宇宙産業の発展に貢献するための一歩を踏み出すことができたと思える所存でございます。

それはひとえに、これまで日本の航空宇宙産業を支えてこられた諸先輩方の築き上げてこられた信用や技術があつてのこととでございますし、弊社創業以後に多くのご助力をいただきました。この場を借りて改めて感謝を申し上げます。また、今後とも本邦航空産業の一翼を近い将来担う存在になるべく精進して参りたいと存じますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。